



Foundation for Biomedical Research and Innovation at Kobe

神戸医療産業都市は、阪神・淡路大震災によって大きな被害を受けた神戸経済を立て直し、市民の命を守り、人類の健康と福祉に貢献することを目的としてスタートしました。当機構は、2000年3月、この神戸医療産業都市を推進するための中核拠点として井村裕夫初代理事長のもと財団法人先端医療振興財団として発足、2018年に本庶佑第2代理事長のもと現在の「公益財団法人神戸医療産業都市推進機構」に発展改組されました。神戸医療産業都市の発展は日覚ましく、現在、高度専門医療機関を含め360を超える企業や団体が集積し、約1万2千人が働く国内最大級のバイオメディカルクラスターに成長しています。神戸医療産業都市推進機構は、その中核的支援機関として産学官医の連携・融合を推進しております。

我が国は、世界に先駆け少子高齢化社会に突入し、様々な医療課題に直面しつつあります。また、新型コロナウイルス感染症による災禍も記憶に新しいところです。これらの医療課題をどう解決し健康寿命を延伸するかは、我々に課せられた大きなミッションです。神戸医療産業都市には、これら課題に取り組む基盤となるサイエンス、医療、橋渡し研究、計算科学、企業群などが育ってきています。また、医学も基礎と臨床が一体となり、ヒト疾患の成り立ちを生物学的に解明するまで進化を遂げてきています。神戸医療産業都市推進機構は、今まで以上にこれら活動の連携・融合を図り、その相乗効果により新たな産業を創出、これを現実の医療に戻すことにより、神戸市・神戸市民の付託に応え、強靱でしなやかな健康長寿社会の実現に向け、神戸から世界へ発信していく役割を担ってまいります。

今後とも皆様方の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



公益財団法人
神戸医療産業都市推進機構

理事長
成宮 周

【プロフィール】

1973年京都大学医学部卒業。1992年京都大学医学部教授、2004-2007年京都大学医学研究科長・医学部長。2010年京都大学医学研究科メディカルイノベーションセンター長、2013年京都大学名誉教授、京都大学医学研究科特任教授。2006年学士院賞恩賜賞。2017年文化功労者。2024年より神戸医療産業都市推進機構理事長。専門は薬理学・生化学。

概要

名称	公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 Foundation for Biomedical Research and Innovation at Kobe
所在地	〒650-0047 神戸市中央区港島南町6丁目3番地の7 クリエイティブラボ神戸5階
設立	2000年3月17日
理事長	成宮 周
基本財産	12億2,345万円 (2024年3月31日時点)



ロゴマーク

神戸医療産業都市推進機構の英語名称 “Foundation for Biomedical Research and Innovation at Kobe” の頭文字から “FBRI” がロゴマークとしてデザインされています。

神戸医療産業都市は、人々の健康と医療産業の活性化を第一に考えており、神戸医療産業都市の推進には産学官医そして市民の協力が必要不可欠であることから、その原点とも言える「人」をイメージしたデザインとなっています。

また色は、自然に恵まれた神戸をイメージする、海の青色、山の緑色、空の水色、が用いられています。

※FBRIのロゴは、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構の登録商標です。

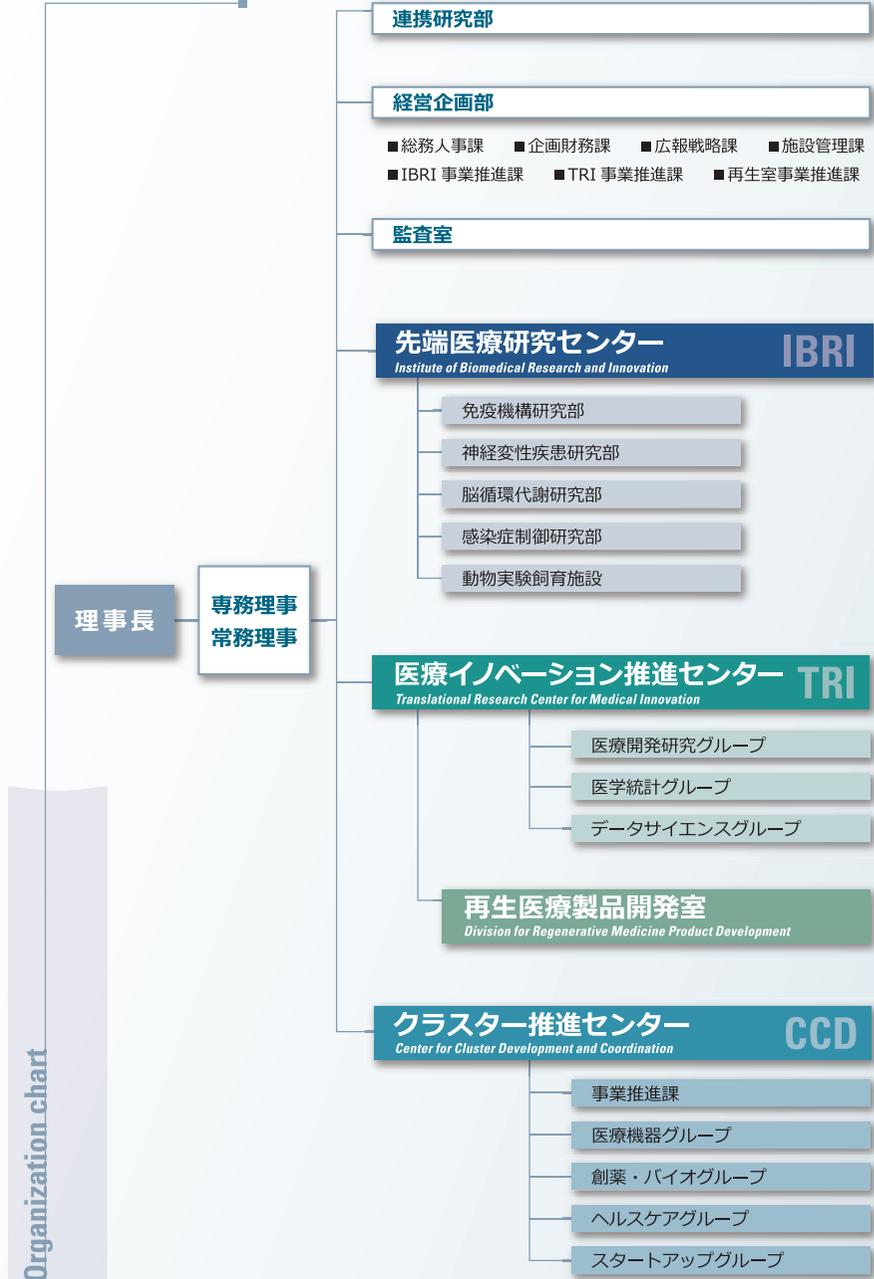
公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 役員等名簿 (2025年7月1日現在)

役員の種別	氏名	役職
理事長	成宮 周	京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター長
専務理事	長谷川達也	神戸医療産業都市推進機構専務理事
専務理事	久保田 守	神戸医療産業都市推進機構専務理事 シスメックス元上席執行役員
専務理事	森 浩三	神戸医療産業都市推進機構専務理事 神戸市企画調整局局長(医療産業担当)
常務理事	小寺 孝治	神戸医療産業都市推進機構経営企画部長
理事	影山龍一郎	理化学研究所生命機能科学研究センター長
理事	川本 篤彦	神戸医療産業都市推進機構医療イノベーション推進センター長
理事	北村 俊雄	神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター長
理事	木原 康樹	神戸市立医療センター中央市民病院長
理事	松岡 聡	理化学研究所計算科学研究センター長
理事	村上 卓道	神戸大学大学院医学研究科長・医学部長
理事	山下 輝夫	兵庫県保健医療部長
理事	山手 政伸	神戸医療産業都市推進機構クラスター推進センター長
監事	酒井 俊	三井住友銀行公共・金融法人部(神戸)部長
監事	松山 康二	公認会計士
役員等(専務理事を除く)種別内は50音順 (理事13名、監事2名)		
役員の種別	氏名	役職
会長	家次 恒	シスメックス代表取締役会長 グループCEO
名誉理事長	井村 裕夫	京都大学名誉教授
名誉理事長	本庶 佑	京都大学高等研究院副院長/特別教授
顧問	齋藤 元彦	兵庫県知事
顧問	久元 喜造	神戸市長
役員等種別内は50音順 (会長1名、名誉理事長2名、顧問2名)		

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 評議員名簿 (2025年4月1日現在)

氏名	所属等
浅野 薫	シスメックス代表取締役社長 神戸商工会議所副会頭
芦田 信	JCRファーマ代表取締役会長兼社長
今西 正男	神戸市副市長
大津 欣也	国立循環器病研究センター理事長
金田 安史	大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授
西尾 秀樹	神戸市企画調整局長
西田 栄介	理化学研究所領域総括
橋本 信夫	神戸市民病院機構理事長
服部 洋平	兵庫県副知事
藤澤 正人	神戸大学長
堀本 仁士	神戸市医師会長
湊 長博	京都大学総長
50音順 (計12名)	

組織図





神戸医療産業都市 KBIC

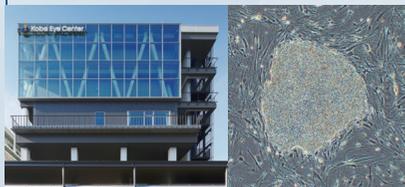
KOBE Biomedical Innovation Cluster

神戸医療産業都市 (KBIC) は、1998年に震災復興プロジェクトとして開始して以降、世界をリードする研究機関や企業等が集積する日本最大級の医療産業都市へと成長しています。

KBICの目的

- 雇用の確保と神戸経済の活性化
- 先端医療技術の提供による市民福祉の向上
- アジア諸国の医療水準の向上による国際貢献

KBICの進出企業・団体（研究機関・大学、医療機関、医療関連企業等）の連携・融合を促進する取り組みにより、世界初のiPS細胞を用いた移植手術の実施や手術支援ロボット「hinotori™」の開発など、神戸発の医療イノベーションの創出に取り組んでいます。



iPS細胞を活用した再生医療の実施拠点「神戸アイセンター」。眼科疾患に関する新しい治療法の研究開発から臨床応用、さらにはリハビリまでを行う画期的な施設。



KBIC進出企業(株)メディカロイドが開発した手術支援ロボット「hinotori™」。2020年に製造販売承認を取得。



PORT ISLAND

南公園駅



理化学研究所
生命機能科学センター



神戸市立医療センター
中央市民病院



神戸アイセンター



兵庫県立こども病院



次世代医療開発センター
(クリエイティブラボ神戸内)
計算科学センター駅



スーパーコンピュータ「富岳」
理化学研究所
計算科学センター

医療センター駅



JAPAN

Airport

神戸医療産業都市ポータルサイト
<https://www.fbri-kobe.org/kbic/>



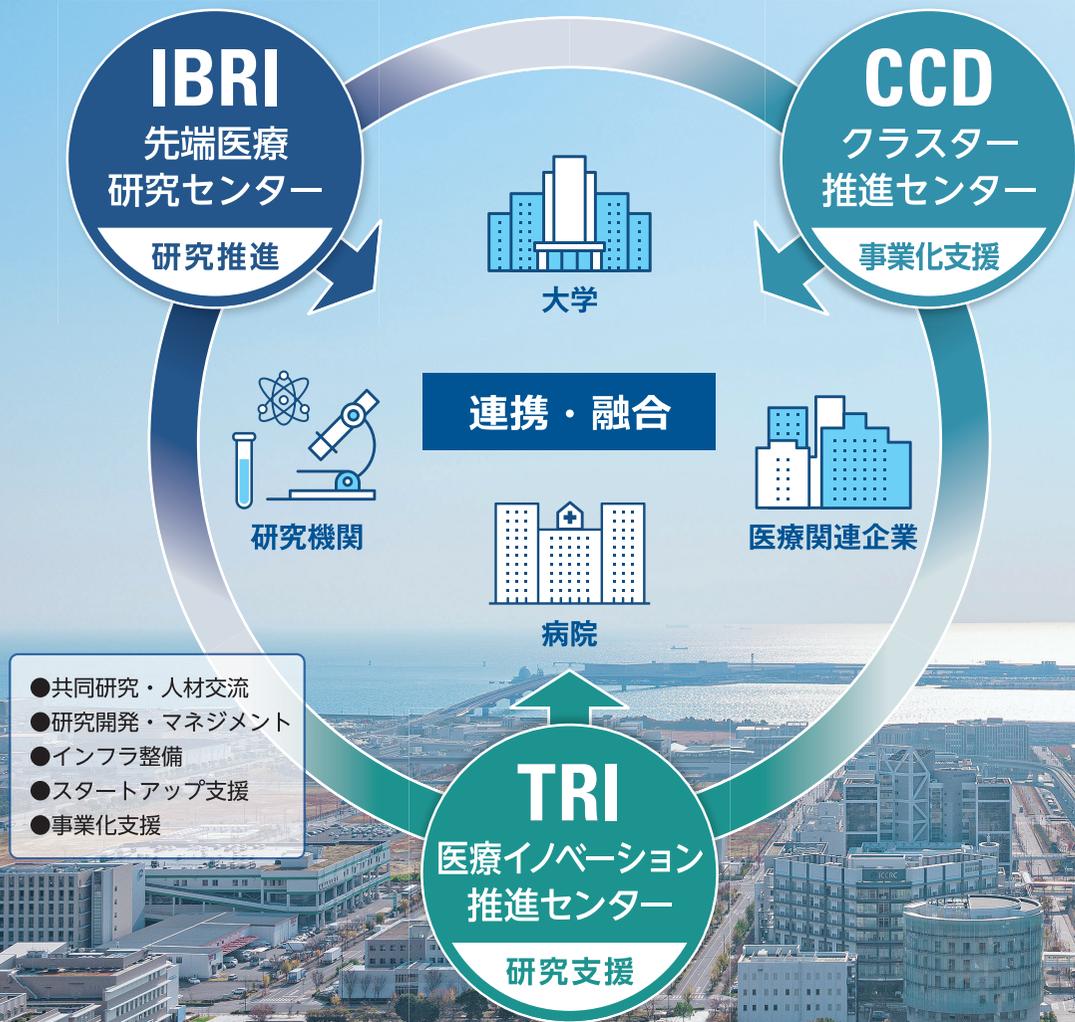


KBIC の推進組織

神戸医療産業都市推進機構

Foundation for Biomedical Research and Innovation at Kobe

FBRI



FBRIの3センターが協働し
各プレイヤー間の連携・融合を
促進することで、革新的医療
イノベーションの創出を推進

医薬品

医療機器

再生医療

ヘルスケア

神戸医療産業都市推進機構 (FBRI) は、神戸医療産業都市の活動を支援・推進する中核的支援機関です。

神戸から世界に向けて新しい医療の未来を作りだすために、「研究推進」「研究支援」「事業化支援」のそれぞれをミッションとする3つのセンターを設置し、研究開発から事業化までを強力にサポートしています。医薬品、医療機器、再生医療、ヘルスケアなど多岐に渡る分野において、神戸医療産業都市の環境を活かした産学官医の連携を促進し、神戸発の医療イノベーションの創出を推進しています。

先端医療研究センター <神戸先端研>



センター長 北村 俊雄

健康長寿社会に向けた
新しい医療の開発を目指して

我が国は急速な高齢化と少子化によりさまざまな問題を抱え大きな岐路に立たされています。

先端医療研究センターの目標は、健康長寿社会の実現のために、「癌・白血病」「認知症」「自己免疫性疾患」「感染症」の4領域を中心として、特に老化関連領域の研究を推進し、健康長寿社会実現に寄与することです。

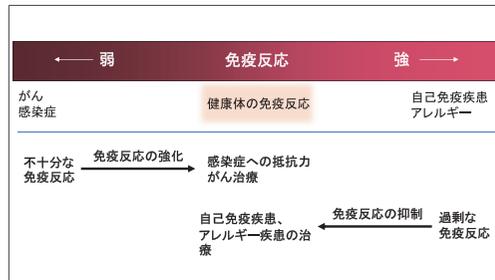
同時に中高生を対象に、研究の面白さや楽しさを広く伝えるための活動を積極的に行います。

免疫機構研究部

部長 太田 明夫

免疫調節の研究が可能とするもの

免疫系というのは、言うなれば体内の統治システムです。体内に元から存在するものや外から来たウイルスやアレルギー物質、それにがん細胞も同じシステムによって処理します。大概の場合はうまくいっているのですが、時にがん細胞相手にはもっと強とかアレルギーはもっと弱くしてなんて注文を付けたい場面があります。システムというものに融通が利かないのは世の常ですが、医療の場合はそこに介入することができます。我々が免疫調節を研究する意味はそこにあつて、免疫反応をうまくコントロールする有効な手段があれば、いろいろな病気の治療に役立つのです。また、問題がわかっていても、どう介入すれば良いのか不明な場合もあります。例えば、歳をとるとどうしても免疫機能が低下してくる理由も判然としませんが、こういったことの原因を探って解決法に結びつけるのも重要な目標です。



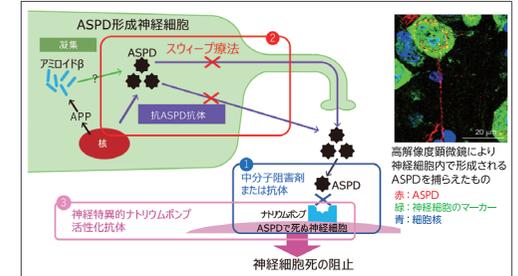
神経変性疾患研究部

部長 星 美奈子

「一生健やかに笑顔で生きる」ため、ヒトの脳を識り、
神経変性疾患の治療法開発に挑戦

ヒトの脳は、これまでの記憶と学習に基づいて、自分がこれからどう生きたいのか?という「私らしさ」の根本を決めています。アルツハイマー病をはじめとする神経変性疾患では、脳の中で「神経細胞」が死んでいくことで、この私らしさが失われていきます。我々は、分子のレベルで、なぜ、どうして、どうやって神経細胞が死んでいくのかを明らかにしつつあり、正しい理解に基づいてそれを防ぎ、最期まで健やかに私らしく人生を歩める手伝いをしていきたいと思っています。

■ アルツハイマー病根本治療に向けた3つの研究戦略で「脳を守る」

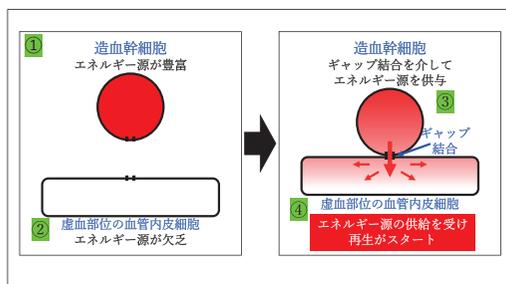


脳循環代謝研究部 部長 田口 明彦

脳を治す医療を神戸から世界へ

寝たきりの原因第1位は脳卒中、第2位は認知症であり、現状ではこれらの疾患を治す有効な治療法がありません。私たちは、(1)脳梗塞に対する幹細胞投与が、脳梗塞周囲の神経幹細胞活性化を介して神経機能を再生させること、(2)認知症に対する幹細胞投与が、海馬の神経幹細胞活性化を介して神経機能を再生させること、(3)造血幹細胞や間葉系幹細胞を使った幹細胞治療の根本的な作用機序が、ギャップ結合を介した直接的な細胞-細胞相互作用であること(下図)など、脳神経機能の再生に関する全く新しい知見を、世界に先駆けて次々と発見報告してきました。現在、それらの成果に基づき、脳梗塞および認知症を治す再生医療を日本から世界へ普及させるための研究開発を行っています。

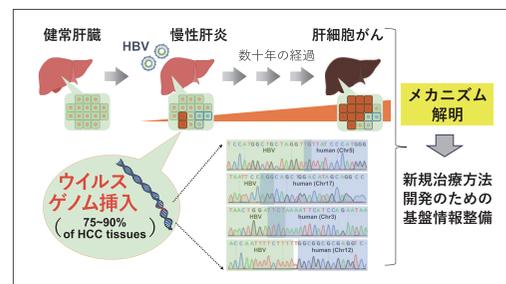
■再生医療における造血幹細胞の作用機序



感染症制御研究部 部長 村松 正道

感染病態発生機序を研究し、
診断・治療法の開発につなげます

WHOによると世界には少なくとも3億人以上の肝炎ウイルス感染者がいます。この肝炎ウイルスの感染が持続すると、肝硬変や肝がんなどの重症肝臓疾患につながる事が知られており、その結果、毎年100万人以上の方が亡くなっています。この状況は日本も例外ではなく、肝炎ウイルス感染症は公衆衛生上の重大な問題となっています。本研究部は、肝炎ウイルスがどのように肝臓で持続的に生きながらえ、またその後、重症肝臓疾患をどのように引き起こすのかを研究していきます。ウイルスが肝臓に持続的に感染し続けるメカニズム、それに引き続いて病気が発生する仕組みを詳細に調べることで、ウイルスを排除する方法や重症化を予防する方法、あるいは病気の進行を阻止する方法の糸口を探っていきます。



動物実験飼育施設

安全な実験動物飼育環境の提供と
高度な動物実験支援を目指して

神戸医療産業都市推進機構動物実験飼育施設は「動物の愛護および管理に関する法律」に則り、「神戸医療産業都市推進機構 動物実験実施要領」によって管理・運営している動物実験飼育施設です。当施設には実験動物飼育管理のスペシャリストならびに生殖工学技術者がおり、先端医療研究センターの研究者が科学的観点、動物愛護の観点および環境保全の観点から安心して最先端の動物実験を行えるよう支援し、神戸医療産業都市におけるライフサイエンス発展に貢献できるよう目指しています。



先端医療研究センター(IBRI) 研究拠点

神戸医療産業都市推進機構20周年記念
次世代医療開発センター



クリエイティブラボ神戸(CLIK)内

6F	←	6F
免疫機構研究部		5F
神経変性疾患研究部		4F
感染症制御研究部		3F
		2F
		1F

共用機器室

1F ←

動物実験飼育施設

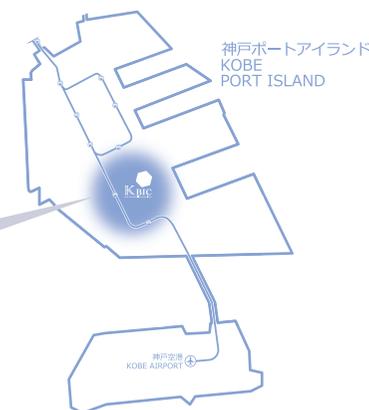
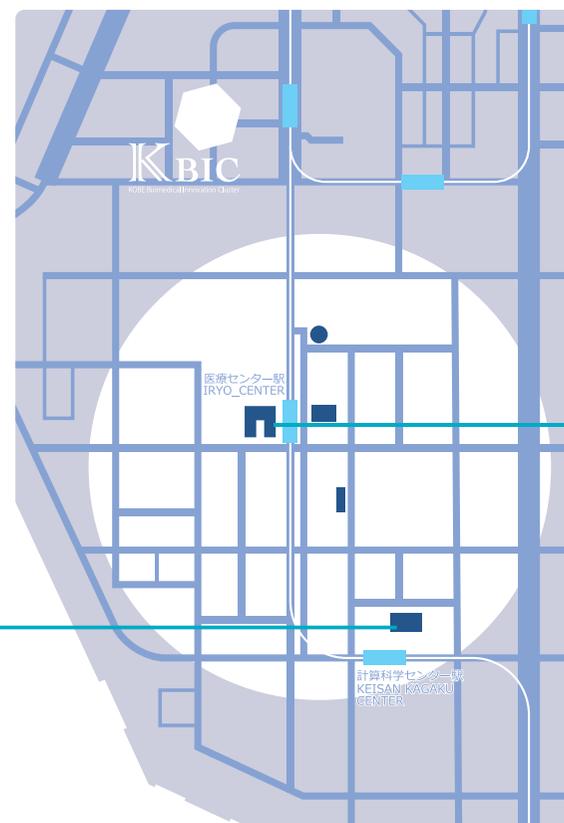


クリエイティブラボ神戸

HBIは、当機構20周年と本庶 佑名誉理事長のノーベル生理学・医学賞受賞を契機とし、2021年4月に神戸医療産業都市内のクリエイティブラボ神戸 (CLIK) の1階および6階に開設した研究施設です。

1階には国際基準に見合う「動物実験飼育施設」を設置。6階には、先端医療研究センター (IBRI) の3つの研究部を1フロアに集約しています。

また、神戸医療産業都市で活動する研究者・民間企業等に広く利用いただくことを目的として高度な研究設備「共用機器室」を整備しています。



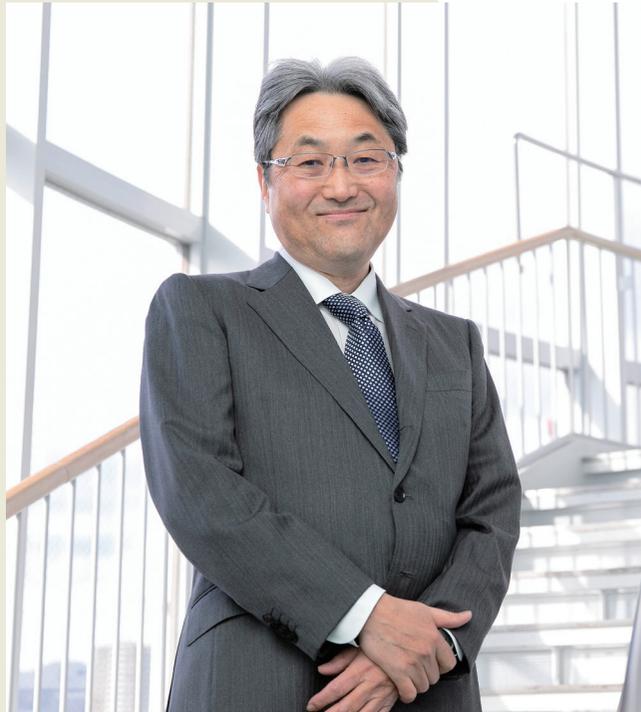
先端医療センター

研究棟

5F 脳循環代謝研究部



先端医療センター



センター長 川本 篤彦

最先端医療の実用化による健康寿命の延伸を目指して

医療イノベーション推進センター（TRI）は、アカデミアにおける初のデータセンター、解析センターとして 2003 年に創設されました。創設以来 TRI では、すべての医師や研究者がいつでも利用できる国内外に開かれたアカデミア研究支援機関（Academic Research Organization: ARO）として成長、発展を続けています。

現在では、大学などの研究機関、医療機関、企業の有する研究シーズの非臨床開発や知財戦略に関する助言、治験・臨床研究の立ち上げ・運営・規制当局対応から、データ解析、論文執筆まで、ワンストップサービスを提供しています。さらに、アカデミア発シーズの企業リエゾンやグローバル展開まで支援の幅を広げています。

医学系以外の基礎研究者に対しては、医療研究者或いは企業とのマッチングを行うなど、医療現場のニーズに基づくシーズの発掘及び育成を行っています。また、人工知能（AI）技術を用いた新たな臨床試験の運営・推進方法の開発に外部機関と連携して取り組んでいます。医師や研究者が研究用データを収集・整理することを支援するため、TRI の情報技術（IT）開発部門がアプリ開発も行っています。

すべての活動の根幹にあるのは、「人々が健やかに生きられる社会をつくりたい」という想いです。そのため、日本の医療の力をより高めるための“土壌”づくりを力強く推進し、豊かな木々を“種子（シーズ）”から育み、臨床現場に必要とされる“実”を届けます。TRI は、それらの取り組みを通して「最先端医療の実用化による健康寿命の延伸」というテーマに向かって挑戦し続けています。



1 早期段階シーズの育成

当機構発の研究シーズの開発に注力し、実用化に向けた取り組みを図るとともに、機構外の有望なシーズに対しても開発戦略の考案、研究費の獲得支援、知財戦略策定、非臨床試験の計画などの支援を行い、将来の臨床開発へと繋げています。TRI では創設以来、アカデミア・企業の皆様からの研究相談を継続して行っています。

最近のトピックスとしては、2018 年度から継続中の国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による「戦略的創造研究推進事業のライフサイエンス分野における研究成果の持続的イノベーション創出基盤構築のための調査及び提案」事業や 2023 年度からの AMED「医療機器開発における事業化・実用化支援」事業を受託し、これらの活動により、医学分野のシーズ開発のみならず、工学・理学・情報工学系等の異分野発の先端科学技術の医療開発への展開を含めた橋渡し研究支援体制を強化しています。



2 治験・臨床研究の推進・管理

全国の企業やアカデミアが実施する治験・臨床研究の企画、規制当局への対応、事務局運営から、統計解析、学会報告、論文執筆までワンストップ体制で支援しています。また、学会や研究会が主導するレジストリ研究への支援も積極的に行っています。

TRI は、プロジェクトマネジメント、モニタリング、データセンター等の機能を保有しており、これらの広範な知識・経験・技術を駆使しながら、質の高い臨床データの効率的な集積を行っています。また、臨床開発の経験が豊富な臨床医や生物統計家も在籍しており、集積した臨床データに関する医学的・統計学的な助言を行っています。

近年では、クラスター推進センターと協働しながら、神戸医療産業都市への進出企業が推進する臨床開発の支援活動にも積極的に取り組んでいます。



3 公益性の高い事業の推進

公益財団法人に所属する Academic Research Organization (ARO) として、公益性の高い事業を推進しています。例えば、神戸市が保有する医療・健康関連ビッグデータを活用・解析することで、行政ビッグデータ整備のノウハウを蓄積し、研究者へのデータベース提供サービスの確立を目指しています。

2023 年からは、治験を行う際に必要となる規制当局への届出文書を簡便・高品質に作成することを可能にした「新治験計画届作成システム」を日本医師会から引き継いで運営しています。全国の企業やアカデミアにご利用いただいていることから、本システムの安定的な維持・管理という重責を果たすべく、活動しています。

このほか、希少・難治性疾患について国際的希少疾患コンソーシアムである Orphanet（本部：パリ）に日本を代表する機関として加盟し、希少疾患情報の翻訳・公開や関連情報の登録を行い、国内外における情報の充実を図る活動も行っています。



4 再生医療製品開発室による事業化推進

再生医療用の細胞加工製品の製造・品質管理の実施及び実施支援を推進します。

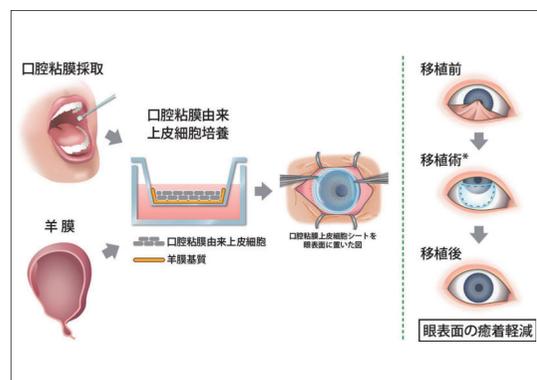
再生医療製品開発室

1 角膜再生製品の受託製造と製造・品質管理工程の変更等に関する業務

眼の表面にある角膜は角膜上皮で覆われていますが、外傷や疾患によって損傷を受けると、角膜表面が濁ったり覆われたりして視機能が著しく障害されることがあり、治療が困難です。本細胞加工製品は、京都府立医科大学眼科教室が臨床開発を進めてきた再生治療用の口腔粘膜上皮シートで、そのような眼表面の難治性疾患における眼表面再建に有効です。

このシートは、患者さん本人の口の中の細胞を羊膜の上で培養して作製するもので、既に臨床研究、先進医療、医師主導治験において多数の患者さんに移植されて、その安全性と有効性が確認されてきました。その結果、2022年に再生医療等製品として承認されました。当室は、この細胞加工製品の製造・品質管理を一貫して実施してきましたが、現在は製造販売承認後の製造販売業者からの受託製造を実施しています。

■ 口腔粘膜上皮細胞シートの製造と移植



2 軟骨再生製品（治験製品）の製造と製造販売承認申請支援

膝関節にある軟骨は自己修復能力に乏しく、外傷によって損傷を受けると再生・修復の可能性はほとんどありません。本細胞加工製品は、欧州で開発された軟骨再生治療用製品で、培養用足場であるコラーゲンゲル内において患者さん本人の軟骨細胞を培養して作製するものです。移植治療により軟骨損傷部の修復を行うことで、膝軟骨損傷に伴う痛みの除去と膝機能の回復という効果が期待できます。

本品は軟骨損傷に対しては欧州において多くの臨床実績がありますが、日本においても探索的医師主導治験及び検証的企業治験が行われ、良い治療結果が得られています。また、軟骨損傷よりも患者の多い変形性膝関節症に対する探索的治験を実施した結果、やはり良い治療効果があることが分かりました。そのため、承認取得のために検証的治験の準備を進めています。当室は、一貫して本品の製造・品質管理を実施しています。

■ 自己軟骨細胞加工製品（軟骨細胞含有コラーゲンゲル）の製造と移植



クラスター推進センター

神戸医療産業都市のコンシェルジュ — 未来の健康・医療を、つなぐ、育む —

クラスター推進センターは、地元中小企業や神戸医療産業都市進出企業に対する様々な事業化支援や海外クラスターとの連携、産学官医連携を通じて、神戸医療産業都市におけるクラスター形成を加速することを目的として 2005 年度に設置されました。

設置以来、神戸医療産業都市を構成する企業、研究機関・大学、医療機関等の融合・連携を促進し、集積による相乗効果を産み出すとともに、医療機器や創薬・バイオ、ヘルスケア、スタートアップなど各分野の専任コーディネーターによる一貫した支援体制の構築に取り組んでまいりました。

今後は、これまでの約 20 年間で築いてきたネットワークなどを活かして、イノベーション創出のための仕組みづくりに取り組み、革新的な技術が次々に生まれるエコシステムの形成を進めます。

また、技術シーズの発掘から事業化まで一貫した事業化支援や地元企業等のグローバル展開支援を通じて、革新的製品の創出や国内外で活躍するスタートアップの育成を目指します。

交流・ネットワーキングの場の提供や相談窓口の利便性向上などにより、連携強化や研究・操業環境の充実を図るとともに、共通課題の解決や魅力的なクラスター形成に取り組んでまいります。



センター長 山手 政伸

1 イノベーションが生まれる 仕組みづくり

これまでの約 20 年間で築いてきたネットワークや収集してきたシーズ・ニーズ情報を活かして、イノベーションの創出を更に推進するための仕組みづくりに取り組んでおります。

神戸発の医療機器を創出するため、産官学医連携による医療機器開発エコシステムの形成を図る「神戸未来医療構想」の推進や、神戸医療産業都市に進出している再生医療に関連した企業や研究者との連携により再生医療の事業化を目指す「神戸再生医療勉強会」など、様々な取り組みを実施しています。

また、神戸医療産業都市に集積する研究機関や基盤施設などの研究開発インフラを活用した共同研究プログラムである「HBI イノベーションプログラム」を推進しています。

これらの取り組みを通じて、神戸において、革新的な技術が次々に生まれるエコシステムの形成を進めております。



2 グローバル展開も見据えた 地元企業等に対する事業化支援

医療機器、創薬・バイオ、ヘルスケア、スタートアップの各分野において、シーズ探索から販路開拓まで一貫した事業化支援を継続して行っております。休養・栄養・運動など市民生活に近いヘルスケア分野においては、市民モニター制度を設け、製品・サービスの事業化に必要な科学的エビデンス取得のための実証試験の実施に係るトータルサポートを行っています。また、世界に羽ばたくライフサイエンススタートアップを育成するために、成長段階に応じた支援プログラムを用意して伴走支援を行っています。

さらに、海外展示会への進出企業との共同出展、海外の主要なバイオクラスターとの連携強化などを通じて、地元企業等のグローバル展開を支援するとともに、海外企業の神戸進出も支援しています。

これらの取り組みを通じて、代表的な革新的製品の創出や国内外で活躍するスタートアップの育成を目指していきます。



3 魅力的なクラスターの形成

神戸医療産業都市を構成する進出企業や研究者からの研究開発シーズの事業化、医療機関との連携、薬事戦略に関する相談など、ライフサイエンス分野に関する多様な課題に対してコーディネーターが一元的に対応する「ワンストップサポート事業」を運営しています。

また、企業・研究者・医療機関が集まり、情報交換やネットワーキングを行う場として「OPEN INNOVATION cafe」を開催しています。知識や経験を共有することで繋がりを深め、神戸医療産業都市を中心とした今後の協働や連携の可能性を広げる取り組みとなっています。

さらに、グローバルでの認知度向上を目指し、広報活動や視察の受け入れ等、国内外のクラスターとのネットワーク構築にも積極的に取り組んでいます。

これらの取り組みを通じて、神戸医療産業都市における連携強化、事業化支援の充実を図り、神戸の更なるプレゼンス向上を目指しています。





ご支援のお願い

最先端の医療を患者さんのもとへ

神戸医療産業都市推進機構では「日本が直面している様々な医療課題をどのように解決して健康寿命を延伸するか」を目的に、日々、研究開発をしています。最先端の医療を支えるのは、基礎研究の積み重ねです。いただいたご支援は、免疫疾患や認知症などの新規治療法開発のため、大切に利用します。

寄付で実現できること

最先端の医学・医療の研究を支援する

免疫疾患、アルツハイマー病、脳梗塞、肝炎ウイルスなどの難病治療の研究開発に取り組み、社会に貢献する志を持つ研究者のために、大切にさせていただきまます。



先端医療研究センター

高度な研究基盤の整備を支援する

本機構の次世代医療開発センターは、ライフサイエンスの革新的医療技術の実用化をめざして誕生した研究施設です。高度な研究基盤の持続的発展には高額な費用がかかります。



次世代医療開発センター

募資金額

本基金の趣旨にご理解のうえ、ご協力をお願いしております。

個人寄付 一口 1万円

法人寄付 一口 10万円

※一口未満の金額でもありがたくお受けいたします。

ご寄付のしかた

(1) クレジットカード



■ 寄付のお願い ■

(2) 銀行振込

www.fbri-kobe.org/giving

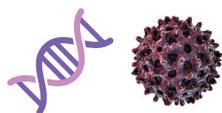


最先端の医療を支えるのは 基礎研究の積み重ね



免疫研究

脳研究



再生医療

感染症研究

あなたのご寄付が医学・医療の
未来を切り拓きます

税法上の優遇措置

当機構は公益財団法人(特定公益増進法人に該当)の認定を受けています。ご寄付いただいた場合、税法上の優遇措置が受けられます。

※詳細は法人税法、所得税法、租税特別措置法によります。

OUR HISTORY

FBRI

神戸医療産業都市推進機構

2000

2000年(平成12年)

- 財団法人先端医療振興財団 設立
- 先端医療センター着工



2003年(平成15年)

- 先端医療センター 全面開業
- 先端医療センター病院 開院
- 神戸臨床研究情報センター開設



2004年(平成16年)

- 井村 裕夫が理事長に就任

2005年(平成17年)

- クラスター推進センター[CCD]を設置

2000

2005

神戸医療産業都市

1999年(平成11年)

- 神戸医療産業都市構想研究会 発足



1998年(平成10年)

- 神戸医療産業都市構想懇談会 設置
(座長:井村 裕夫 神戸市立中央市民病院院長(当時))

2000年(平成12年)

- 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター(当時)開設



- 「新産業構造形成プロジェクト 関連の復興特定事業」に選定

2003年(平成15年)

- 構造改革特区第1号として「先端医療産業特区」に認定

2002年(平成14年)

- 文部科学省「知的クラスター創成事業」の実施地域に選定

2007年(平成19年)

- 文部科学省「知的クラスター創成事業(第II期)」に選定

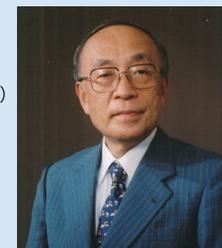
2006年(平成18年)

- 医療関連企業・団体進出数100社



KBIC

1998



2012年(平成24年)

- 先端医療振興財団、公益財団法人へ移行

2013年(平成25年)

- 「滲出型加齢黄斑変性に対する自家iPS細胞由来網膜色素上皮シート移植に関する臨床研究」の研究開始
- PMDA戦略相談連携センターを設置

2015年(平成27年)

- 本席 佑が理事長に就任

2016年(平成28年)

- Life Science Nord(ヨーロッパ最大級のバイオクラスター)と意向表明書を締結
- BIOCOM(米国西海岸最大のバイオクラスター)と基本合意書を締結
- 日本イーライリリー株式会社、神戸市と認知症にやさしいまちづくり推進のための連携と協力に関する協定を締結



2017年(平成29年)

- 再生医療製品開発室を設置
- 先端医療センター病院を中央市民病院へ統合

2018年(平成30年)

- 法人名称を公益財団法人神戸医療産業都市推進機構に改称
- 本席 佑理事長(当時)がノーベル生理学・医学賞を受賞

2019年(平成31年/令和元年)

- バイエル薬品株式会社、神戸市とベンチャー企業の育成・支援に関する協定を締結
- 本席 佑理事長(当時)のノーベル賞受賞と機構設立20周年を契機とした次世代医療開発センター[HBI]の整備を決定

2020年(令和2年)

- 国立大学法人長崎大学と包括連携に関する協定を締結
- フラウンホーファー研究機構(ドイツ)と国際共同研究協定を締結
- 「本席記念神戸基金」創設

2021年(令和3年)

- クリエイティブラボ神戸内に本部移転
- 次世代医療開発センター[HBI]開設



2022年(令和4年)

- MAGIA(欧州4か国の医療クラスター)と基本合意書を締結
- 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、神戸市とスタートアップエコシステム構築等に関する連携協定を締結



2010

2012年(平成24年)

- スーパーコンピュータ「京」共用開始
- 「地域イノベーション戦略支援プログラム提案事業」に採択



2011年(平成23年)

- 医療関連企業・団体進出数200社
- 「関西イノベーション国際戦略総合特区」への指定

2009年(平成21年)

- 文部科学省・経済産業省「産学官連携拠点(グローバル産学官連携拠点)」に選定

2014

2015

2015年(平成27年)

- 医療関連企業・団体進出数300社



- 文部科学省「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」に採択

2014年(平成26年)

- ポスト「京」の神戸立地が決定
- 「関西圏国家戦略特区」への指定
- 世界初の自家iPS細胞を用いた移植手術の実施(対象疾患:滲出型加齢黄斑変性)



2016年(平成28年)

- 文部科学省「地域科学技術実証拠点整備事業」に採択

2017年(平成29年)

- 文部科学省「地域イノベーションエコシステム」に採択
- 神戸アイセンター開設



- 世界初の他家iPS細胞を用いた移植手術の実施(対象疾患:滲出型加齢黄斑変性)



2020

2018年(平成30年)

- 神戸医療産業都市20周年

2020年6月(令和2年)

- 内閣府「スタートアップ・エコシステム拠点都市形成戦略」に選定
- 神戸発の手術支援ロボット「hinotori™」が製造販売承認取得



2020

2021

2021年(令和3年)

- スーパーコンピュータ「富岳」共用開始



ACTIVITY BASE

神戸医療産業都市推進機構の
主な活動拠点

PORT
ISLAND

国際医療開発センター(IMDA)



神戸臨床研究情報センター(TRI)



先端医療センター(IBRI)



KBIC
KOBÉ Biomedical Innovation Cluster

神戸ハイブリッド
ビジネスセンター(KHBC)



クリエイティブラボ神戸(CLIK)



OSAKA



公益財団法人
神戸医療産業都市推進機構

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町6丁目3番地の7 クリエイティブラボ神戸5階
TEL:078-306-1700(代表) FAX:078-306-1708
E-MAIL:kbic-info@fbri-kobe.org URL:https://www.fbri-kobe.org/

